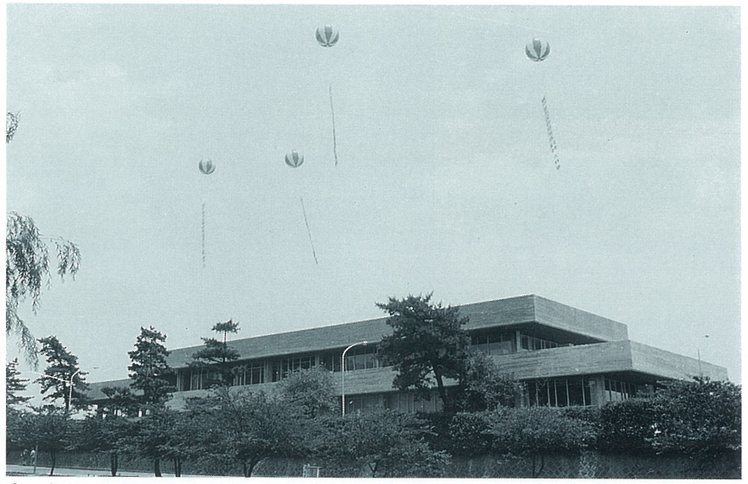
V　文化都市へのあゆみ

戦後地方公共団体の財政難は全国的な問題となり、本市もその例外ではありませんでした。そうした中でも、下水道事業など都市施設を重点に、文化住宅都市に向かって整備が行われました。昭和30年代中ごろには、健全財政を取り戻し、以後は本格的に都市機能をはじめ、文化施設の建設にとりかかりました。



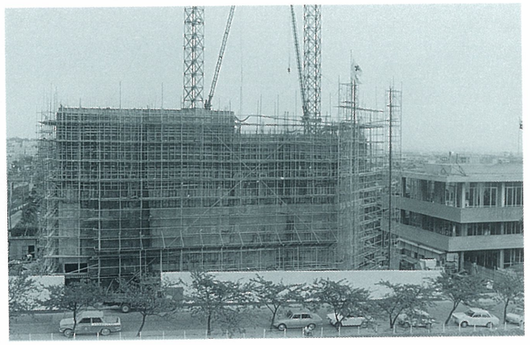
市民会館の落成

市民会館とルナ・ホール　昭和45年

1　公民館・市民会館・図書館

昭和29年、公民館は当時川西町にあった教育委員会事務局の集会室から仏教会館３階に移って、盛んに文化行事を展開し、関係の深い社会教育団体も多くなっていました。こういった文化活動が広く行えるようにと、昭和33年９月に市民会館建設準備室を設置、業平町の公会堂跡に38年２月に着工し、11月に竣工しました。昭和45年４月にはルナ・ホールも開場しています。

また、昭和25年の「図書館法」に先がけて、本市は24年３月仏教会館３階を借用して市立図書館を開館しました。やがて蔵書数や利用者が増加したため、29年２月に打出小槌町２番地の石造り２階建ての洋館に独立の図書館として改装移転しました。



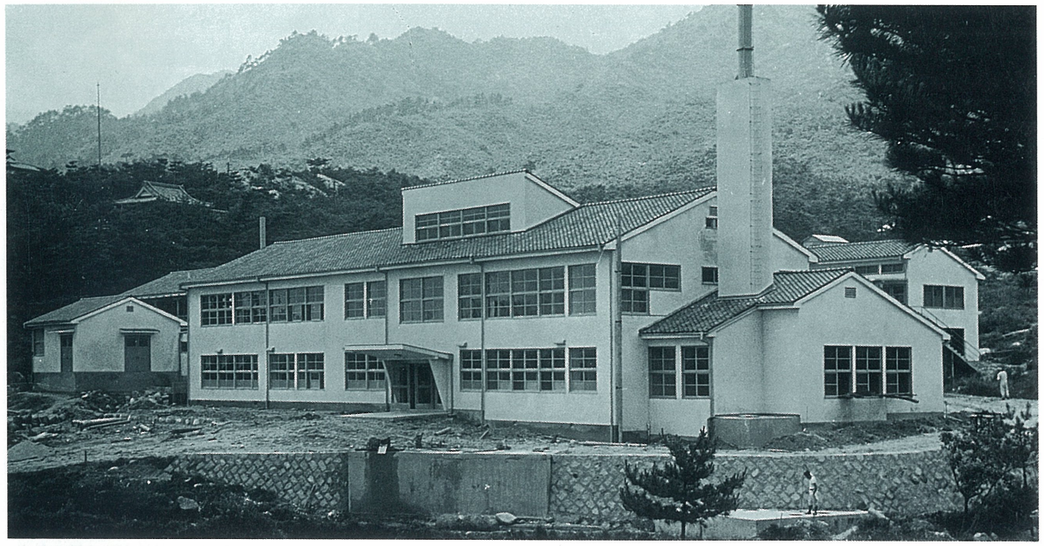
建築中のルナ・ホール　右手が市民会館

公民館活動をご視察の皇太子夫妻（当時）　昭和43年８月

図書館内部
昭和33年

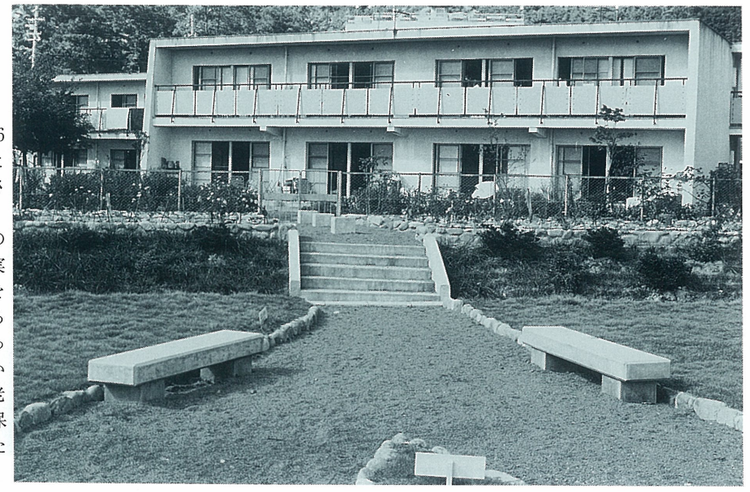
打出小槌町に移転した当時の市立図書館

2 住みよいまち

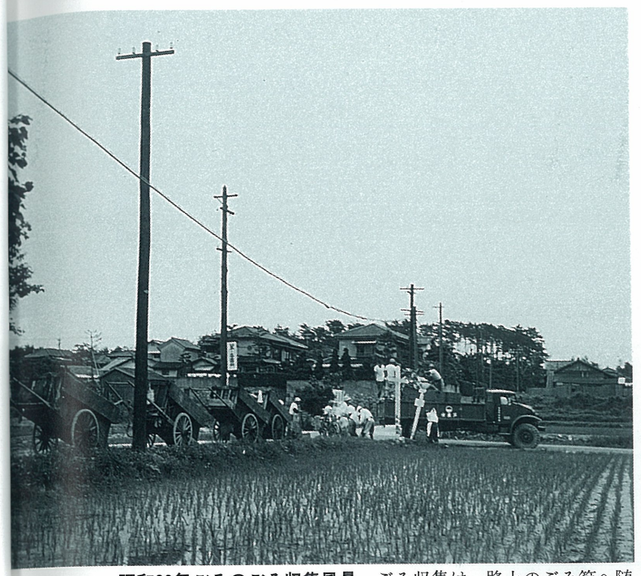


開設当時の市立芦屋病院　昭和27年　住宅都市を目指す本市は、早くから保健衛生への関心が高く、大正７年７月、近代的な設備をもつ病院として、精道村立伝染病院が開院した。その後、昭和27年市民の保健衛生の中心として市立芦屋病院が開設され、伝染病院は35年芦屋病院隔離病舎として新設併院された。昭和45年、芦屋病院は総合病院となり、地域の中核病院としての役割を果たしている。

移動診断　市民結核健康診断　昭和34年８月

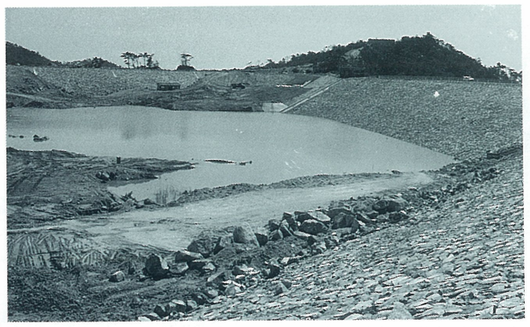


養護老人ホーム「和風園」　昭和46年ごろ　昭和38年老人福祉法施行とともに、老人クラブ連合会が結成され、40年養護老人ホーム「和風園」の開園と、生きがいのある暮らしのために、在宅福祉、地域福祉の充実を軸にした総合的で効率的な福祉を進めてきた。近年は、人口に占める高齢者の割合がだんだんと高くなってきており、これに伴い、生きがいのある明るい毎日が送れるよう、老人ホームの充実、家庭奉仕、短期保護などに力を入れ、心の通い合った福祉のまちの実現に努めている。

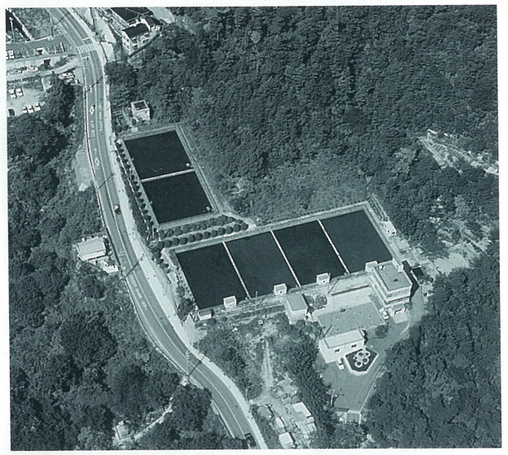


昭和29年ごろのごみ収集風景　ごみ収集は、路上のごみ箱へ随時投入し、肩引（かたびき）車による焼却場への運搬の時代をへて、衛生上の理由や美観対策から直取りの時代を迎えた。昭和32年８月からは、他都市に先がけて道路上からごみ箱を一掃し、全市ペール缶またはポリ袋による収集を実施し、清潔なまちづくりに取り組んできました。

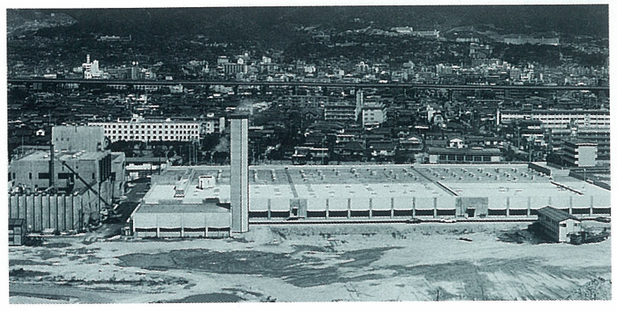
空からの薬剤散布（蚊・はえ対策）　昭和42年



水をためはじめた奥山貯水池　昭和46年　北部開発などにともなう人口の急増に対応するため42年から46年にかけて奥山貯水池の建設が行われた。



奥山浄水場全景　昭和62年



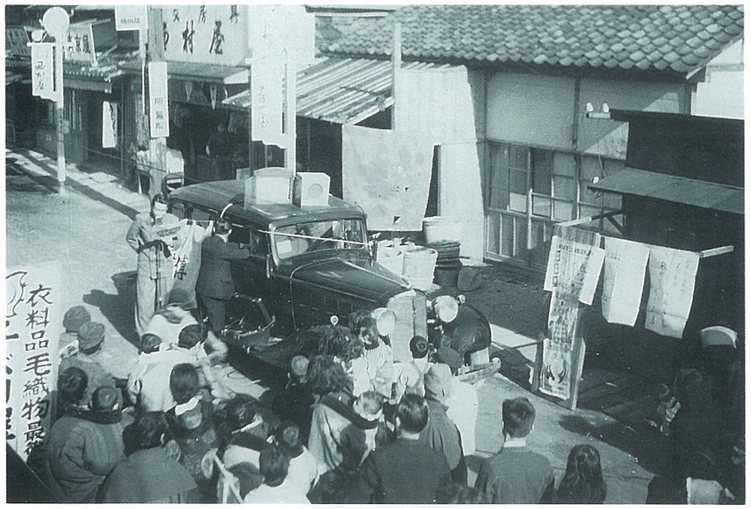
通水を開始した下水処理場　昭和49年７月　昭和10年ごろから他市に先がけて下水道の整備に取り組んできた芦屋市では、芦屋浜埋め立て内に近代的な下水処理場を完成させ、昭和52年度末には、下水道普及率99パーセントを誇り、全国でも屈指の先進地となった。

3 親しまれる市政

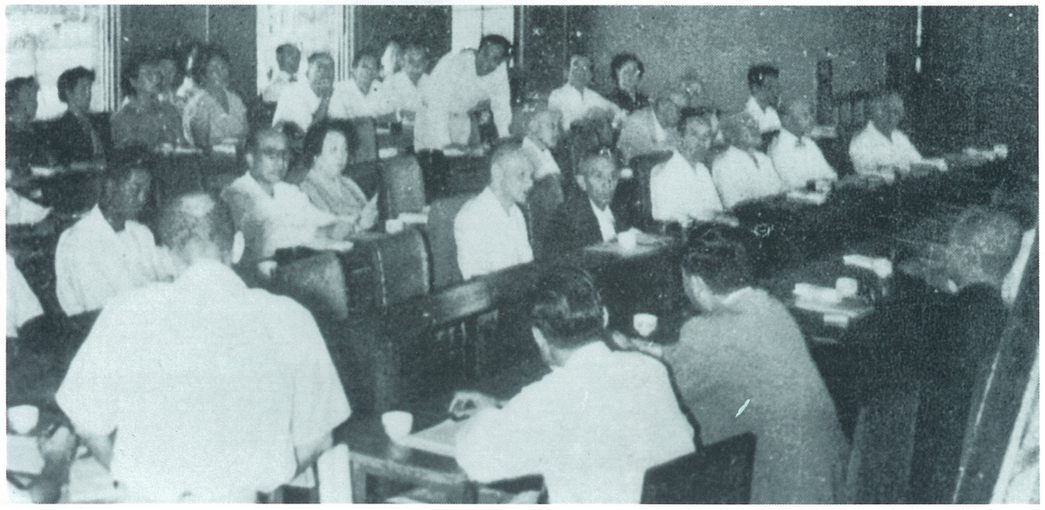
精道村時代、全国の町村に偉容をうたわれた庁舎も、市勢の発展に対応するには不便となり新庁舎建設の企画がたてられました。旧庁舎の南に昭和34年10月、新築工事にとりかかり、35年８月16日に落成、市制施行20周年記念として落成式が挙行されました。

市庁舎落成式　昭和35年８月

芦屋市市庁舎　昭和35年８月完成



広報街頭宣伝　戦災や数度の風水害で受けた大きなつめあとも、市民の手で力強く復興され、そして戦後新しい民主主義の担い手として24年に広報委員会が発足した。広報委員会は、街頭宣伝や地区懇談会を開くなど公聴活動を行った。

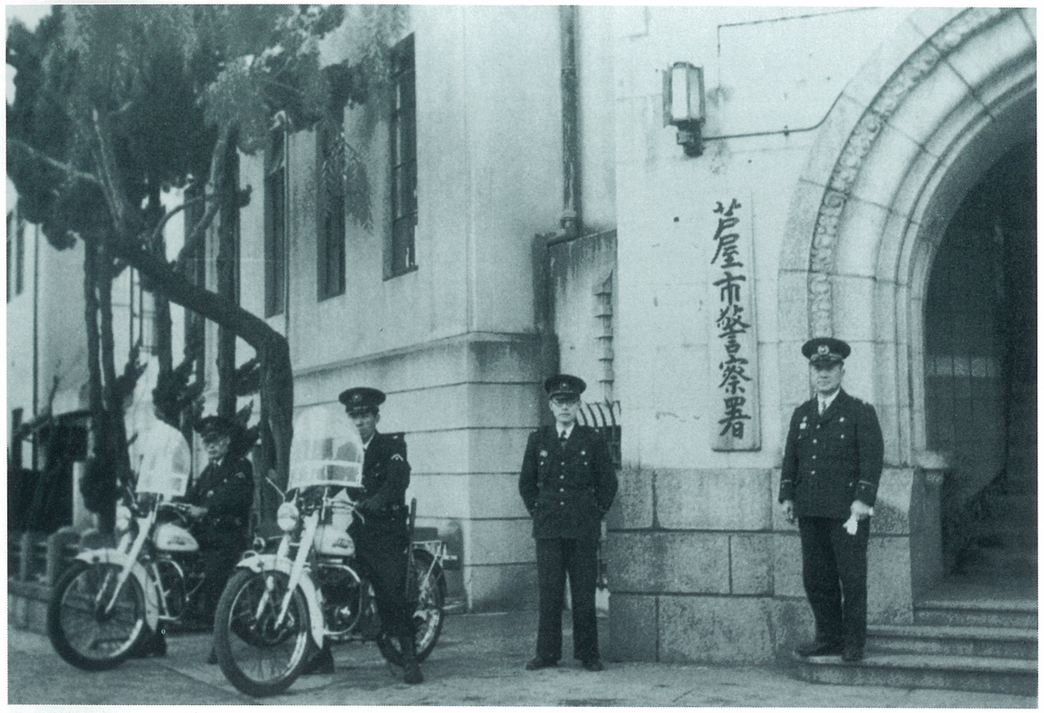


芦屋市広報委員会主催の地区懇談会　昭和28年ごろ　昭和27年７月には山手小学校で第１回市民懇談会を開催し、市民生活に関係の深い衛生・経済・厚生などについて市職員が説明、現在秋に行われている地区懇談会をスタートさせた。

創刊当時の広報「あしや」　手前が創刊号（B6判のころ）

昭和32年ごろの広報車

4 警察・消防ほか



芦屋市警察誕生　昭和25年　昭和２年精道村民の寄付によって開設された芦屋警察署も、22年12月17日警察法が公布され国家地方警察と自治体警察が設置されることになり、本山・本庄両村も管轄する芦屋警察組合警察として23年３月７日に生まれかわった。その後、本山村・本庄村が神戸市と合併したため、芦屋市単独で警察を設置することになり、昭和25年10月10日芦屋市警察が誕生した。芦屋市警察時代には「パチンコのない町芦屋」といわれ、パチンコが爆発的に流行した昭和27年ごろにも、生活環境の悪化を防ぐため市警察の強い指導でパチンコ店の進出を許さなかった。そして昭和29年、新しい警察法によって警察は府県警察に一本化され、芦屋市警察も改称し、兵庫県芦屋警察署がスタートした。

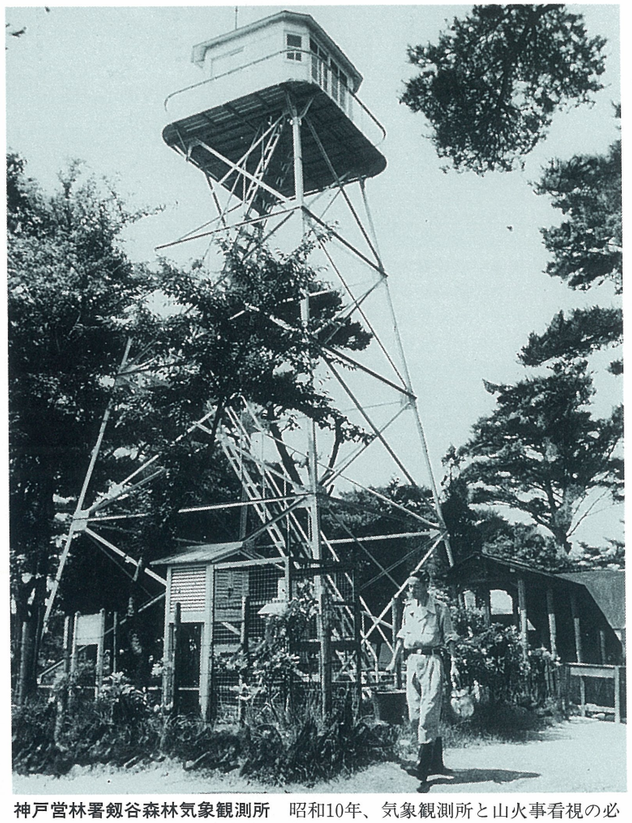
兵庫県警察学校　風光明媚な朝日ヶ丘の高台にある警察学校は、昭和28年９月に建設。

旧消防本部　昭和26年ごろ

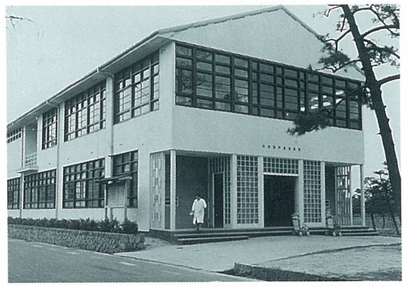
新しくなった消防本部庁舎　昭和37年落成

芦屋郵便局　昭和36年ごろ

芦屋電報電話局（現ＮＴＴ）　写真は昭和初期のもの。ドイツ人が設計した。当時ではモダンな鉄筋コンクリート造りの建物。



神戸営林署剱谷森林気象観測所　昭和10年、気象観測所と山火事看視の必要性から六麓荘町、剱谷国有林の標高565.6メートルのゴロゴロ岳に設置された。当時25歳の若さで池野良之助技官が着任、以後48年６月観測所廃止まで、剱谷の緑の山を守って38年間、山火事の通報や人命救助にあたり「人間灯台」と信頼された。山を下りたときは63歳。池野氏の「随想日誌」は自然と人間のかかわり方について教えている。

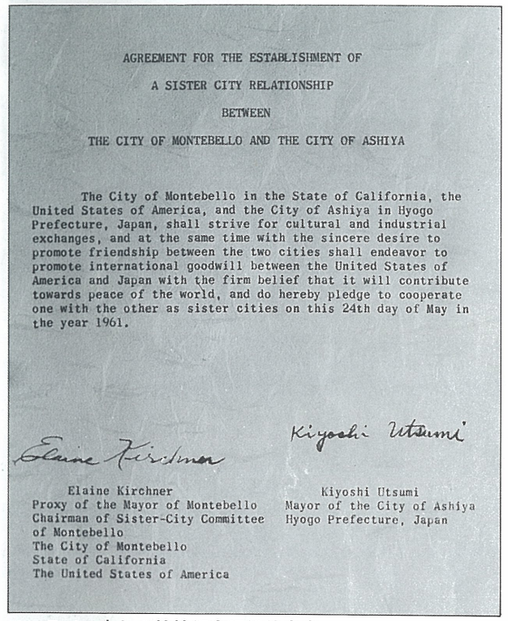


県立芦屋保健所　現在の業平公園の位置に昭和22年11月開設。地方における公衆衛生の向上・増進を目的とする。55年に現在地に移転した。

昭和36年ごろの芦屋税務署

海技専門学院　昭和31年当時の建物。船員に対する総合的再教育機関として昭和20年４月に発足。30年運輸省設置法の改正によって、芦屋市の現在地に移転し、翌31年６月本館が竣工、36年４月校名が海技大学校と改称された。

5 国際交流



AGREEMENT FOR THE ESTABLISHMENT OF

A SISTER CITY RELATIONSHIP

BETWEEN

THE CITY OF MONTEBELLO AND THE CITY OF ASHIYA

The City of Montebello in the State of California, the United States of America, and the City of Ashiya in Hyogo Prefecture, Japan, shall strive for cultural and industrial exchanges, and at the same time with the sincere desire to promote friendship between the two cities shall endeavor to promote international goodwill between the United States of America and Japan with the firm belief that it will contribute towards peace of the world, and do hereby pledge to cooperate one with the other as sister cities on this 24th day of May in the year 1961.

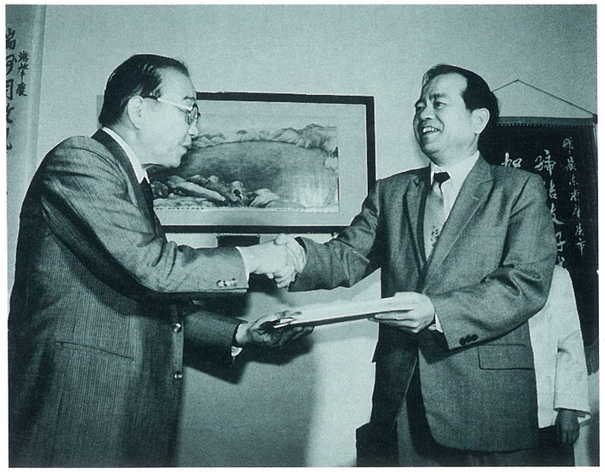
Elaine Kirchner
Proxy of the Mayor of Montebello
Chairman of Sister-City Committee
of Montebello
The City of Montebello
State of California
The United States of America

Kiyoshi Utsumi
Mayor of the City of Ashiya
Hyogo Prefecture, Japan

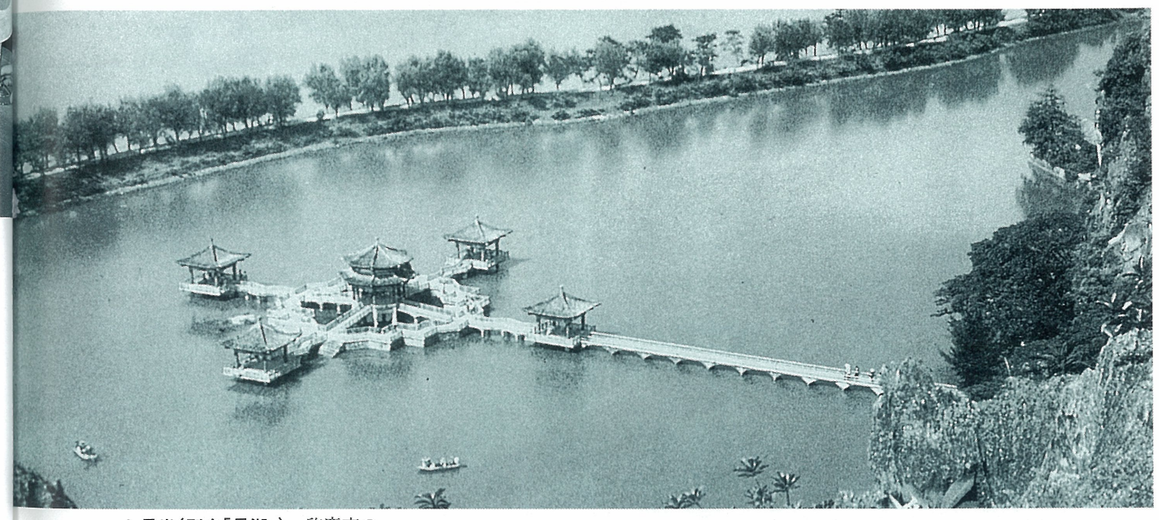
モンテベロ市との姉妹都市提携協定書

精道小学校講堂で行われた姉妹都市提携式　昭和36年５月、文化や経済の交流を通じ、国際理解と世界平和に寄与しようと、アメリカ合衆国カリフォルニア州モンテベロ市と芦屋市との姉妹都市提携式が行われた。

提携式はモンテベロ市代表を迎えて　昭和36年５月24日



肇慶市の温樹市長と山村市長の固い握手
昭和62年11月　国際化時代の潮流にあわせ、名実ともに国際文化住宅都市「芦屋」にふさわしい国際親善・文化交流を図るため、中国肇慶市(広東省)との友好を深めている。



七星岩(別名「星湖」)　肇慶市の北48キロ離れた郊外に位置し、屹立(きつりつ)する七つの石灰岩が、北斗七星のような形に並んでいるので、「七星岩」という名がつけられた。

ユネスコ会館　昭和40年６月　ユネスコ活動は昭和23年、芦屋ユネスコ協力会と芦屋ユネスコ学生クラブが発足、「心のなかに平和のとりでを」のユネスコ精神の普及につとめ、34年には芦屋ユネスコ協会として再スタートをきった。39年秋にアメリカのH・ローズ夫人の５万ドルの寄付により、奥山に財団法人兵庫県ユネスコ会館が開館、40年には日本ユネスコ運動全国大会が行われた。